INTEC
COMPONENT WORLD

DVDプレーヤー

DV-S205TX
取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

ONKYO®

目　次

特長

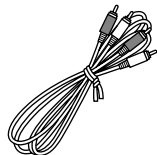
■ ドルビー※1デジタル／DTS※2／PCMデジタル出力端子（光：2）装備
■ D1映像出力／コンポジット出力／Sビデオ出力端子装備
■ 96kHz/24bit D/A（デジタル→アナログ）コンバーター搭載
■ ビデオCD対応
■ 27MHz/10bit ビデオD/A（デジタル→アナログ）コンバーター搭載
■ リモコンで簡単にメニュー操作ができるCURSOR/ENTERボタン
■ オンスクリーンディスプレイ
■ 8段階の再生スピード調整機能
■ ドルビーデジタル／DTS対応5.1チャンネル
■ 3D VIRTUALサラウンド
■ INTEC205シリーズとRI動作

※1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

※2 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround" は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

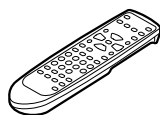
付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（　）内の数字は数量を表しています。

- オーディオ用ピンコード(1)

- ビデオ用ピンコード(1)

- RIケーブル(1)

- Sビデオコード(1)

- リモコン(1)

- 乾電池（単3形）(2)

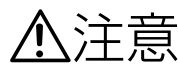
- 取扱説明書(本書1)
- 保証書(1)

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
  内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気を付けてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔やディスク挿入口などから金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災·感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、機器の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの発熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因になります。

⚠警告

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

● 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

● 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

● 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

● 本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

⚠注意

■ 使用上の注意

指をはさまれないように注意

● お子様がディスク挿入口に手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

● ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

● レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力傷害を起こすことがあります。

● キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。
磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

● 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ず、プラグを持って抜いてください。

● 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

● 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

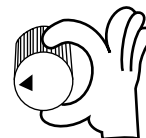
- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

♪ 音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

使用できるディスクについて

再生できるディスク

本機は下記のディスクを再生することができます。
DVDビデオ、ビデオCD、音楽用CD（CDDA）、CD-R/CD-RW

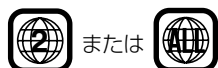
* **CD-R／CD-RWディスクの再生について**

本機は音楽CDフォーマット、ビデオCDフォーマット、またはMP3の音楽データが記録されたCD-R／CD-RWディスクを再生することができます。
詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

CD-R／CD-RWディスクについてのご注意

- ファイナライズ済みのディスクのみ再生できます。
- マルチセッションには対応していません。
- 録音時間が極端に短いディスクの場合、正しく再生できないことがあります。

リージョン番号（再生可能地域番号）について

DVDビデオによって、リージョン番号が指定されているものがあります。リージョン番号はそのディスクを再生できる地域を限定するもので、日本はリージョン番号「2」が指定されています。
リージョン番号が指定されたディスクにはそれを表わすマークがプリントされています。本機では以下のマークのついたディスクを再生することができます。

または
これ以外のリージョン番号マークのついたディスクを再生しようとすると、再生できない旨の表示が画面にでます。

ビデオCDについて

本機はPBC付きビデオCD（バージョン 2.0）に対応しています。（PBCは、Playback Controlの略です。）ディスクによって、2種類の再生を楽しめます。
PBCなしビデオCD（バージョン 1.1）：音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（画像）を再生できます。
PBC付きビデオCD（バージョン 2.0）：PBCなしのビデオCDの楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニューを使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（メニュー再生）。この取扱説明書で説明されている機能が働かない場合があります。

本取扱説明書の内容について

この取扱説明書は、本機の基本的な操作のしかたを説明しています。DVDビデオ、ビデオCDは、ディスク制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機はディスク制作者が意図した内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに動作しないことがあります。再生するディスクに付属の説明書もご覧ください。
ボタン操作中にテレビ画面に「 」が表示されることがあります。「 」が表示されたときは、本機もしくはディスクがその操作を禁止しています。

DVD VCD CD マークについて

DVD はDVDビデオの操作に関する説明です。
VCD はビデオCDの操作に関する説明です。
CD は音楽用CDに関する説明です。

コピー防止について

本機はアナログコピー防止システムに対応しています。ディスクによっては、コピー禁止信号がはいっているものがあり、そのようなディスクを本機で再生してビデオデッキで録画しても、コピー防止システムが働いて正常に録画されません。

著作権について

ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。
本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用はマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、マクロビジョンコーポレーションの許可なしでは、一般家庭用または他のかぎられた視聴用だけに使用されるようになっています。改造または分解は禁止されています。

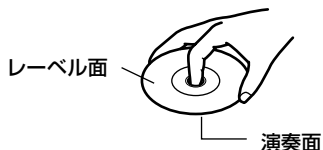
使用できるディスクについて

ディスクについてのご注意

ハート形や八角形など特殊形状のディスクは使用しないでください。機械の故障の原因になることがあります。

パソコン用のCD-ROMなど音楽用ではないディスクは使用しないでください。異音の発生などで、スピーカーやアンプの故障の原因となります。

■ 取り扱いについて

演奏面（印刷されていない面）に触れないように、両端をはさむように持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

演奏面はもちろんレーベル面に紙やシールを貼ったり、文字を書いたりしないでください。また、きずなどをつけないようにしてください。

■ レンタルCDの注意について

CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどののりがはみ出したり、剥がしたあとがあるものはお使いにならないでください。CDが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

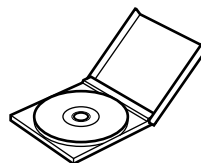
■ 8cm用CDアダプターは使用しないでください。

■ お手入れについて

汚れにより信号読み取りが低減し、音質が低下する場合があります。汚れている場合は、演奏面についた指紋やホコリを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。

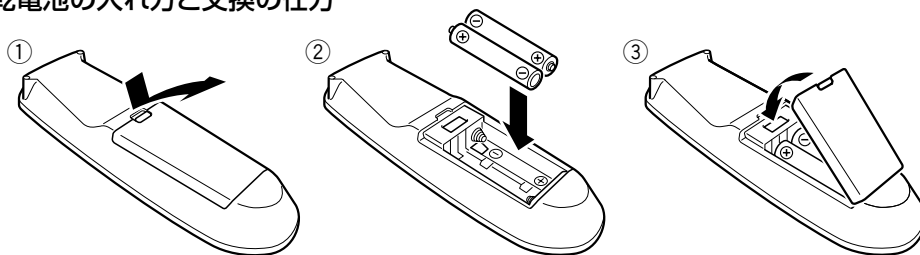
汚れがひどい場合は、柔らかい布を水で浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと柔らかい布で水気を拭き取ってください。
アナログレコード用スプレー、帯電防止剤などは使用できません。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は表面が侵されることがありますので絶対に使用しないでください。

■ 保管上の注意について

直射日光のあたる場所、暖房器具の近くなど、温度が高くなるところや、極端に温度の低い場所はさけ、必ず専用ケースに入れて保管してください。

結露について
本機を冷えた所から暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露と言います。そのままでは正常に動かないばかりではなく、ディスクや部品も痛めてしまいます。
結露している場合は、電源を入れて1～2時間放置してからご使用ください。また、本機をご使用にならないときは、ディスクを取り出しておくことをおすすめします。

リモコンの使い方

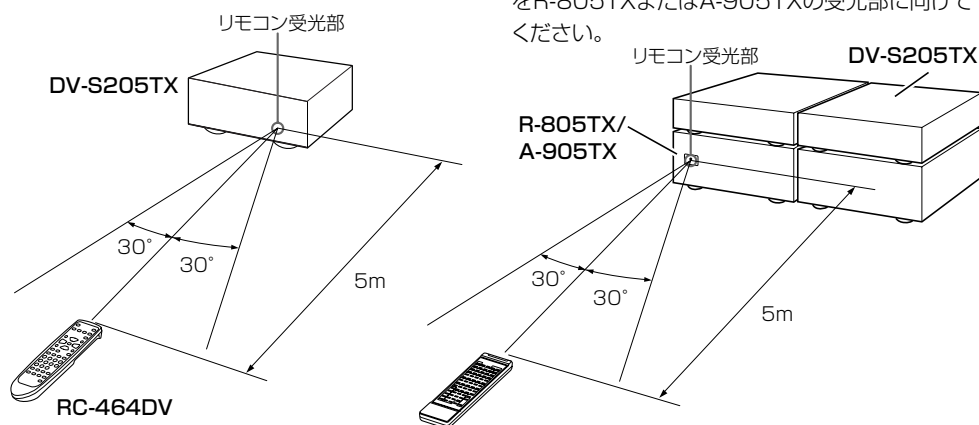
■ 本機付属のリモコン（RC-464DV）

乾電池の入れ方と交換の仕方

お知らせ

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3型をご使用ください。

リモコンの使い方

本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

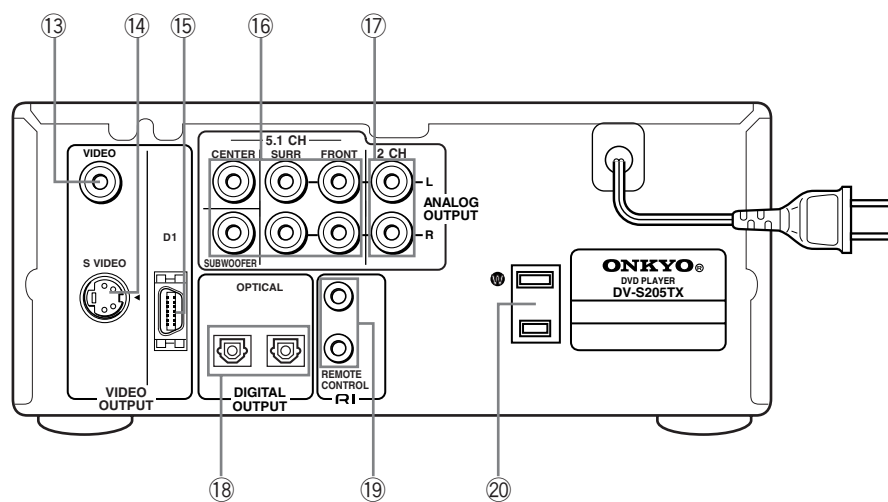
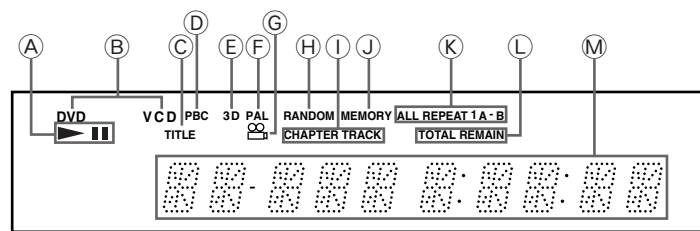
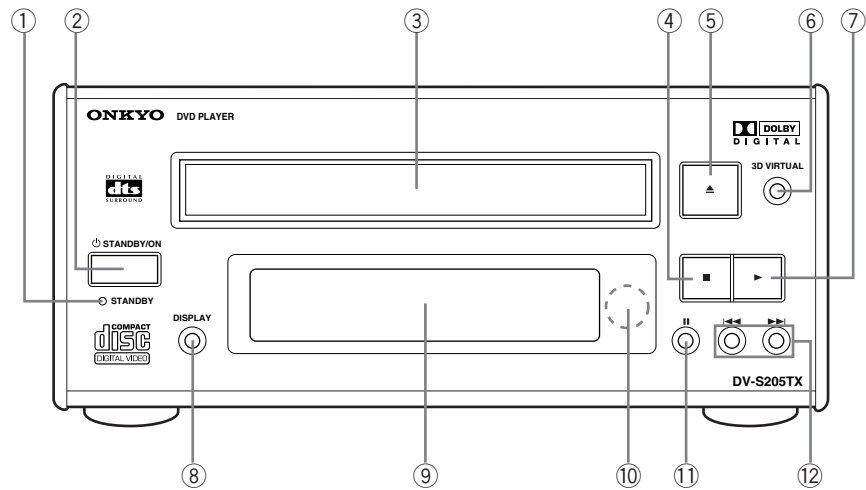
R-805TXまたはA-905TXに付属のリモコン（RC-456S）で本機を操作するときは、リモコンをR-805TXまたはA-905TXの受光部に向けてください。

お知らせ

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

各部の名称

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
ONKYO
DVD PLAYER
DOLBY
DIGITAL
3D VIRTUAL
STANDBY/ON
STANDBY
DISPLAY
COMPACT
DIGITAL VIDEO
DV-S205TX
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫

Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ Ⓕ Ⓖ Ⓗ Ⓘ Ⓙ Ⓚ Ⓛ Ⓜ
DVD
VCD
PBC
TITLE
3D
PAL
RANDOM
MEMORY
CHAPTER TRACK
ALL REPEAT 1 A - B
TOTAL REMAIN

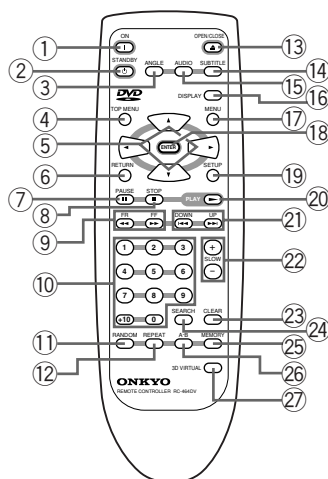
⑬
⑭
⑮
⑯
⑰
VIDEO
S VIDEO
D1
VIDEO OUTPUT
5.1 CH
CENTER
SURR
FRONT
2 CH
L
R
ANALOG OUTPUT
SUBWOOFER
OPTICAL
DIGITAL OUTPUT
REMOTE CONTROL
ONKYO
DVD PLAYER
DV-S205TX
⑱
⑲
⑳

[ ]内の数字は、参照ページを示しています。各部の働きについては参照ページをご覧ください。

前面パネル

① STANDBYインジケーター[21]
スタンバイ状態のときに点灯します。
② STANDBY/ONボタン[21]
スタンバイ状態と電源オン状態を切り換えます。
③ ディスクトレイ[23]
④ ■ボタン[24]
ディスクの再生を止めます。
⑤ ▲ボタン[23]
ディスクトレイを開閉するときに押します。
⑥ 3D VIRTUALボタン[38]
3Dバーチャルサラウンドに切り換えるときに押します。
⑦ ►ボタン[23]
ディスクを再生します。
⑧ DISPLAYボタン[37]
ディスクの情報を表示します。
⑨ 表示部
Ⓐ ►/IIインジケーター
再生中または一時停止中に点灯します。
Ⓑ ディスク（種類）インジケーター
挿入されたディスクの種類を表示します。
Ⓒ TITLEインジケーター
タイトル番号を表示するときに点灯します。
Ⓓ PBCインジケーター
ビデオCDをPBC再生しているときに点灯します。
Ⓔ 3Dインジケーター
3D VIRTUALサラウンドで再生しているときに点灯します。
Ⓕ PALインジケーター
PAL映像を出力しているときに点灯します。
Ⓖ アングルインジケーター
複数のアングルが記録された場面を再生しているときに点灯します。
Ⓗ RANDOMインジケーター
ランダム再生しているときに点灯します。
Ⓘ CHAPTER/TRACKインジケーター
チャプター／トラック番号を表示するときに点灯します。
Ⓙ MEMORYインジケーター
メモリー再生しているときに点灯します。
Ⓚ リピートモードインジケーター
リピート再生しているときに点灯し、リピートモードを表示します。
Ⓛ REMAIN/TOTALインジケーター
経過／残量時間を示します。
Ⓜ 多目的表示部
⑩ リモコン受光部[11]
⑪ IIボタン[24]
映像や音声を再生中に押すと、映像が静止画になり、音声が一時停止します。
⑫ I◄◄/►►Iボタン[30]
DVDビデオ、ビデオCD、CDのチャプター／トラックを前後に飛びこします。

後面パネル

⑬ VIDEO OUTPUT VIDEO端子[16-18]
⑭ VIDEO OUTPUT S VIDEO端子[16-18]
⑮ VIDEO OUTPUT D1端子[16]
⑯ ANALOG OUTPUT 5.1 CH端子[18、20]
⑰ ANALOG OUTPUT 2 CH端子[16-18、20]
⑱ DIGITAL OUTPUT OPTICAL端子[19]
⑲ RI端子[17、18]
RIマークの付いたオンキヨー製AVアンプなどにつないで、AVアンプなどのリモコンで本機を操作できます。付属のRIケーブルを使って、本機のRI端子とAVアンプなどのRI端子を接続します。RIケーブルで接続した場合もオーディオ用ピンコードは必ず接続してください。
⑳ 電源コンセント[18]
他のオーディオ機器の電源コードを接続することができます。本機の電源コードを壁コンセントにつないでいれば、本機が電源オフの状態でも本機の電源コンセントは通電しています。
電源コンセントに接続する機器の消費電力の合計が100Wを超えないようにしてください。
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードの白いラインなどの目印側を、本機の電源コンセントの広い方（Wマーク側）に合わせて接続してください。他機の電源コードに極性表示がない場合は、どちらを接続してもかまいません。

各部の名称

[ ]内の数字は、参照ページを示しています。各ボタンの働きについては参照ページをご覧ください。

リモコンRC-464DV

① **ONボタン［21］**
電源をオンにします。

② **STANDBYボタン［21］**
スタンバイ状態にします。

③ **ANGLEボタン［34］**
DVDビデオのアングルを切り換えます。

④ **TOP MENUボタン［26、28］**
DVDソフトの最上層のメニュー画面を表示します。

⑤ **▲/▼/◀/▶ボタン［26、28、40、42］**
設定項目を選択するとき、カーソルを上下左右に動かします。

⑥ **RETURNボタン［42］**
設定画面が表示されているときに押すと、1つ前の項目に戻ります。

⑦ **PAUSE ❚❚ボタン［24］**
映像や音声を再生中に押すと、映像が静止画になり、音声が一時停止します。

⑧ **STOP ■ボタン［24］**
ディスクの再生を止めます。

⑨ **FR/FF ◀◀/▶▶ボタン［25］**
映像や音声の早送り／早戻しをします。

⑩ **数字ボタン［26、28-30、32、40］**
見たい／聞きたい場所を探すとき、音声や字幕を選ぶとき、メニュー画面で項目を選ぶときなどに押します。

⑪ **RANDOMボタン［33、41］**
ビデオCD、CDまたはMP3のトラックをランダムに再生します。

⑫ **REPEATボタン［31、41］**
ＤＶＤビデオのタイトル／チャプター、ビデオCD、CDのトラック／ディスク全体、MP3のフォルダ／ファイルを繰り返し再生します。

⑬ **OPEN/CLOSE ⏏ボタン［23、24］**
ディスクトレイを開閉するときに押します。

⑭ **SUBTITLEボタン［35］**
DVDビデオの字幕言語を切り換えます。

⑮ **AUDIOボタン［36］**
言語または音声を切り換えます。

⑯ **DISPLAYボタン［37］**
ディスクの情報を表示します。

⑰ **MENUボタン［26、28］**
DVDビデオのメニュー画面を表示します。

⑱ **ENTERボタン［26、28-30、40、42］**
設定した項目を実行します。

⑲ **SETUPボタン［42］**
設定画面を表示するとき、終了するときに押します。

⑳ **PLAY ▶ボタン［23］**
ディスクを再生します。

㉑ **UP/DOWN ⏮/⏭ボタン［30］**
DVDビデオ、ビデオCD、CDのチャプター／トラックを前後に飛びこします。

㉒ **SLOW ＋/－ボタン［25］**
DVDビデオ、ビデオCDをスロー再生します。

㉓ **CLEARボタン［32］**
メモリーしたトラックを消去するときに押します。

㉔ **SEARCHボタン［28、30］**
タイトル／チャプター／トラックを指定して再生するときや経過時間を指定して再生するときに押します。

㉕ **MEMORYボタン［32、41］**
フォルダー／トラックをメモリーするときに押します。

㉖ **A-Bボタン［31］**
選んだ部分だけを繰り返して再生するときに押します。

㉗ **3D VIRUALボタン［38］**
3Dバーチャルサラウンドに切り換えるときに押します。

INTEC205シリーズA-905TXまたはR-805TXに付属のリモコン（RC-456S）またはED-205に付属のリモコン（RC-394S）で本機を操作することができます。リモコンRC-456SまたはRC-394Sの各部の名称と働きは、A-905TX/R-805TXまたはED-205の取扱説明書をご覧ください。

システム接続の流れ

■INTEC205シリーズ R-805TX（チューナーアンプ）、ED-205（AVサラウンドプロセッサー）と接続する場合

システム接続のしかた
（INTEC205シリーズの接続）

本取扱説明書の17-18ページをご覧ください。

INTEC205シリーズの組み合わせでご使用になると、次のシステム機能を使うことができます。

オートパワーオン
本機の電源をオンにしたり再生を始めるとアンプの電源が自動的にオンになります。また本機を使用しないときは本機のみの電源をオフにすることができます。

ご注意
R-805TXのエナジーセーブ中は、オートパワー機能は動作しません。
R-805TXと接続して、R-805TXのエナジーセーブ機能を働かせている場合、本機の電源（STANDBY/ON）ボタンを押しても電源は入りません。再度電源を入れるにはR-805TX側の電源（STANDBY/ON）ボタンを押してください。詳しくはR-805TXの取扱説明書をご覧ください。

ダイレクトチェンジ
本機の►を押すとアンプの入力がLINE/DVDに切り換わります。また、ED-205の入力がMULTI CH INPUTまたはLINE（前回選択された入力）に切り換わります。

リモコン操作
A-905TX/R-805TXまたはED-205に付属のリモコンで本機を操作することができます。

詳しくはA-905TX/R-805TXまたはED-205の取扱説明書をごらんください。

タイマー操作
タイマー演奏ができます（CDのみ）。

詳しくは本取扱説明書の39ページおよびT-405TX/R-805TXの取扱説明書をごらんください。

ご注意

- DV-S205TXからCDR-205TX/CDR-205Xへのシグナルシンクロ録音はできません。
- CD以外のディスクは正しく録音できません。
- A-905TX（アンプ）とT-405TX（チューナー）の組み合わせでも、上記と同じシステム機能ははたらきます。ただしA-905TXの主電源スイッチ（POWER）が切（OFF）になっていたり各機器の接続が正しくないとオートパワー機能は動作しません。オートパワーオン機能を働かせる場合は、A-905TXの主電源が入（ON）になっていることおよび各機器が正しく接続されていることを確認してください。

接続

接続する前に

- 接続するテレビの取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、テレビの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- 本機はテレビと直接接続してください。ビデオデッキなどを経由してテレビと接続した場合、コピープロテクトされたディスクを再生すると画像が歪みます。
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 接続したテレビに合わせて、本機の設定メニュー（☞42ページ）で映像を設定してください。
- テレビやモニターによっては再生時の色の濃さ（カラーレベル）がわずかに薄くなったり、色合い（ティント）が変わったりする場合があります。この場合は、テレビやモニターを調節して、ベストな状態にしてください。

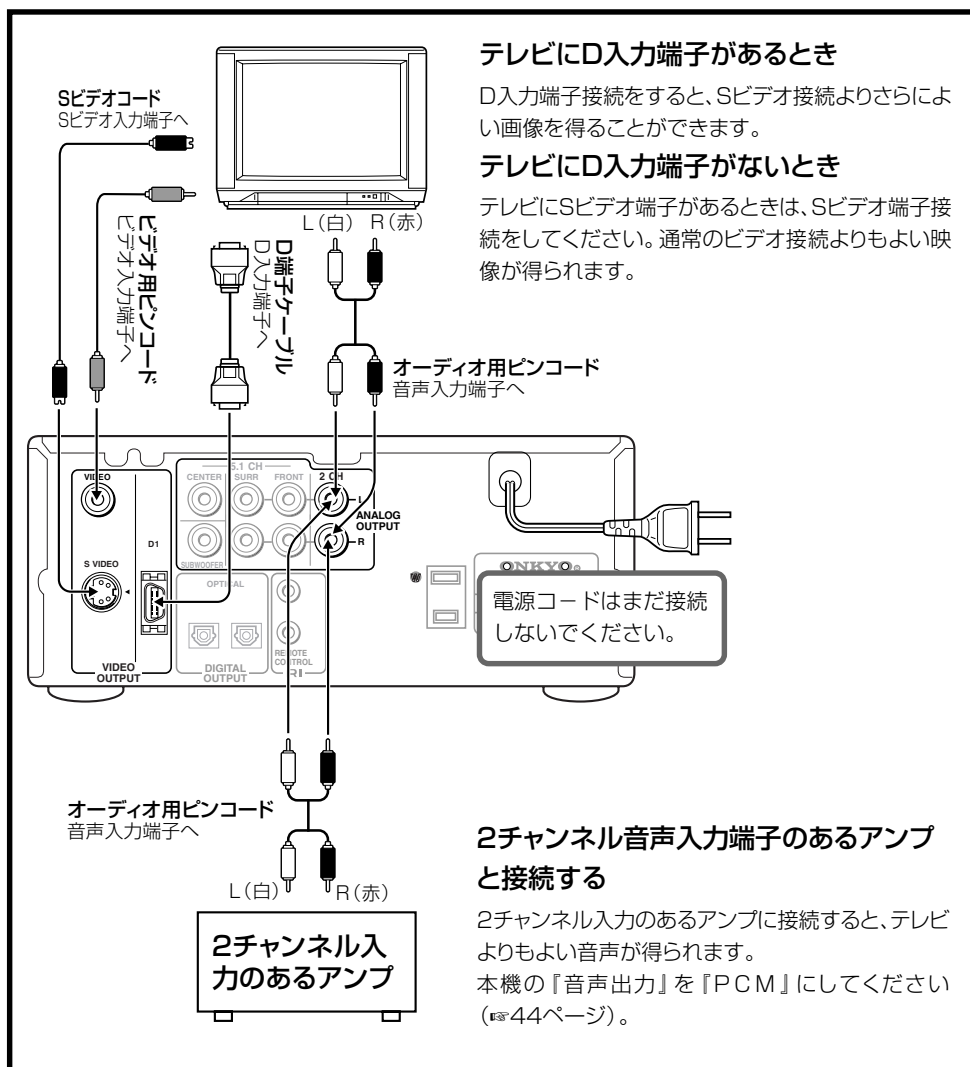
テレビにD入力端子があるとき

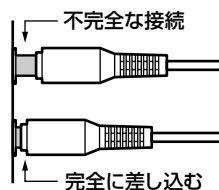
D入力端子接続をすると、Sビデオ接続よりさらによい画像を得ることができます。

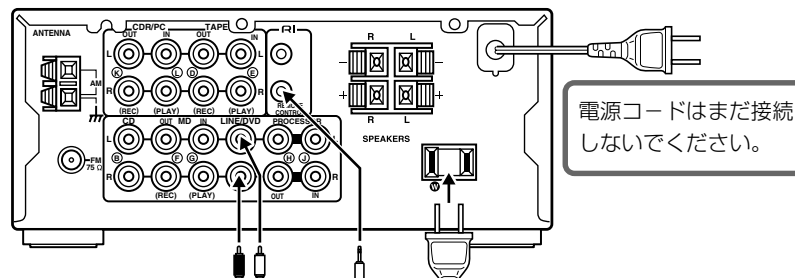
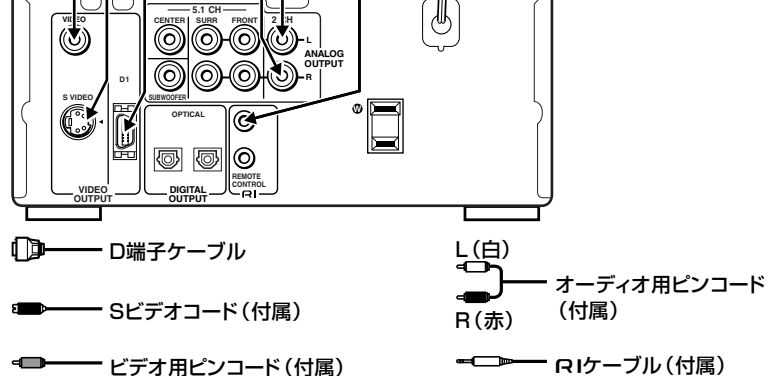
テレビにD入力端子がないとき

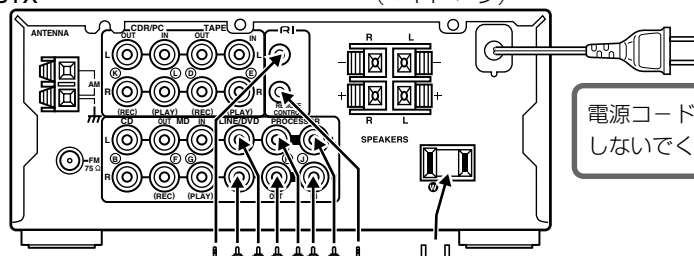
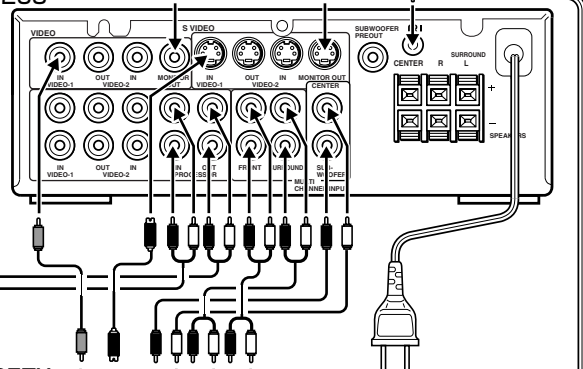
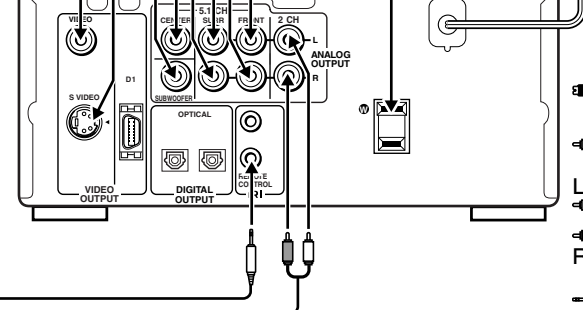
テレビにSビデオ端子があるときは、Sビデオ端子接続をしてください。通常のビデオ接続よりもよい映像が得られます。

2チャンネル音声入力端子のあるアンプと接続する

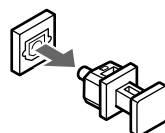
2チャンネル入力のあるアンプに接続すると、テレビよりもよい音声が得られます。
本機の『音声出力』を『ＰＣＭ』にしてください（☞44ページ）。

接続する前に

- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、接続するすべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- RIケーブルを使ってR-805TX/ED-205と接続すると、R-805TX/ED-205のリモコンを使って本機を操作することができます。またこの場合、図のようにオーディオ用ピンコードも必ず接続してください。
- RI端子の上下2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- プラグは奥までしっかり接続してください。

INTEC205シリーズR-805TX（チューナーアンプ）との接続

本機の『音声出力』を『PCM』にしてください（☞44ページ）。

ＩＮＴＥＣ２０５シリーズR-８０５ＴＸ（チューナーアンプ）、ED-２０５（プロセッサー）との接続

本機の『音声出力』を『ビットストリーム』にしてください。
アナログ録音時など2チャンネル出力を使うときは『音声出力』を『ＰＣＭ』にしてください。
（☞44ページ）

本機を市販のアンプに接続することで、高音質でダイナミックな音声を楽しむことができます。
ドルビーデジタルサラウンド、DTSサラウンド音声を再生するときは、それぞれのデコーダーが備わっているアンプとデジタル接続するか、マルチチャンネル入力端子のあるアンプと接続する必要があります。

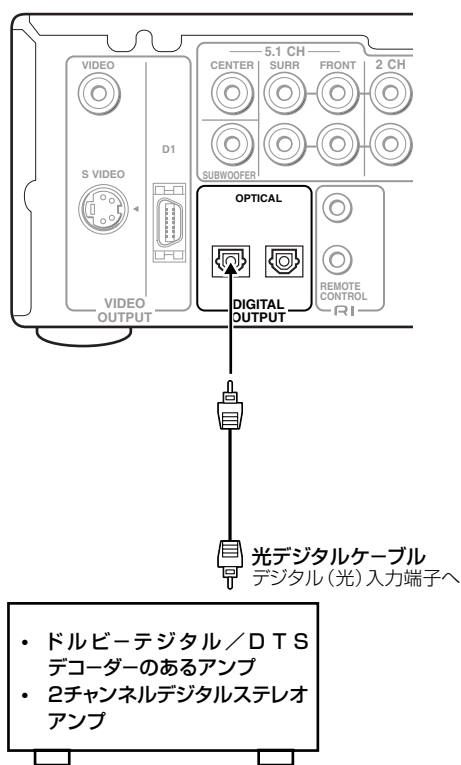
接続する前に

- ビデオ切り換え付きのアンプをご使用の場合は、映像信号はアンプを通してモニターに出力するようにしてください。
- 光入力端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続のときはこのキャップを取り外してください。端子を使用しないときは、キャップを元どおりに取り付けてください。

デジタル端子のあるアンプと接続する

接続したアンプの種類に合わせて、本機の設定メニュー（☞42ページ）で『音声出力』（☞44ページ）を変更してください。
この設定変更は、20ページまでの手順をすべて終了させた後で、行ってください。

■ ドルビーデジタル、DTSのいずれかのデコーダーが備わっているアンプと接続したとき
→『音声出力』を『ビットストリーム』にしてください。

■ 上記のどのデコーダーも備わっていない（2チャンネルデジタルステレオタイプの）アンプと接続したとき
→『音声出力』を『PCM』にしてください。

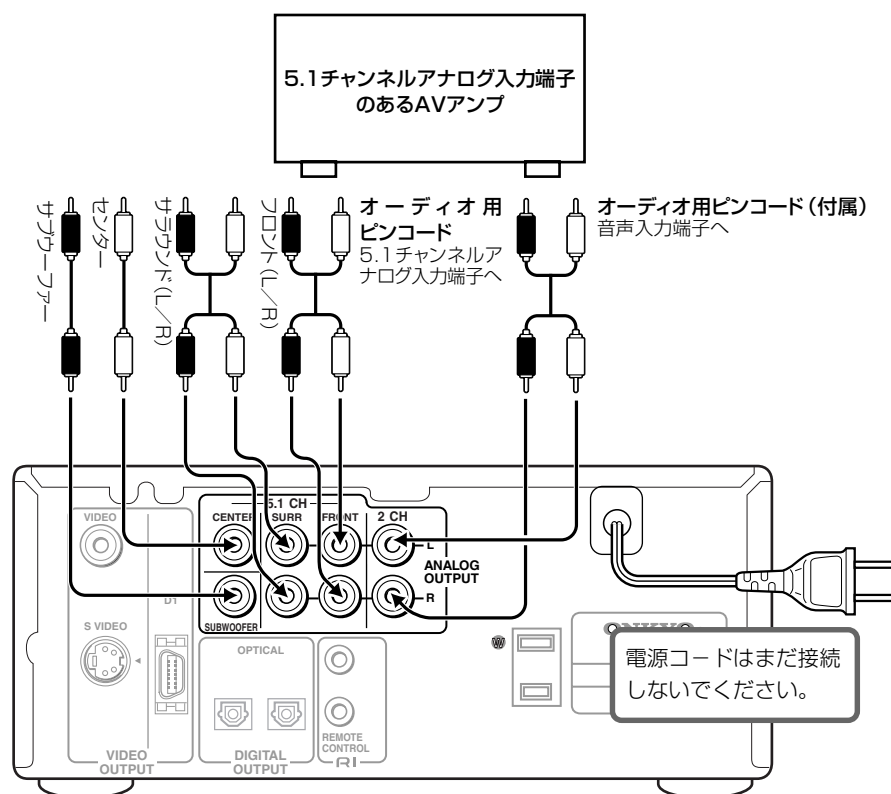
警告
『音声出力』を誤って『ビットストリーム』に設定しないでください。大音量が出て聴覚やスピーカーを損傷する恐れがあります。

5.1チャンネルアナログ入力端子のあるアンプと接続する

ANALOG OUTPUT 5.1 CH端子からDVDビデオソースのマルチチャンネル音声を出力します。ANALOG OUTPUT 5.1 CH FRONT、SURR（サラウンド）、CENTER、SUBWOOFER端子とAVアンプのマルチチャンネル音声入力端子を接続します。

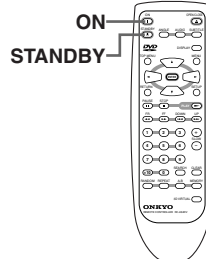
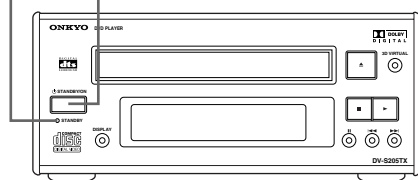
本機の『音声出力』を『ビットストリーム』にしてください（☞44ページ）。

アナログ録音時など、2チャンネル出力を使うときはオーディオ用ピンコードを使って、ANALOG OUTPUT 2 CH端子とアンプの音声入力端子を接続し、『音声出力』を『PCM』にしてください（☞44ページ）。

お知らせ

- 正しく再生できるように、本機と接続したチャンネルが同じかどうか確認してください。
- 接続する機器のPHONO端子またはTUNER端子には、本機を接続しないでください。

電源の入れかた

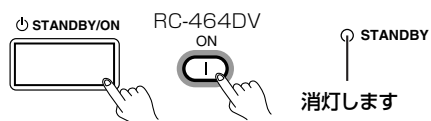
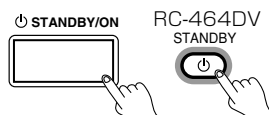
電源オン: 電源を入れた状態です。STANDBYインジケーターが消えています。この状態で通常の操作を行います。

スタンバイ: スタンバイ状態です。STANDBYインジケーターが点灯します。

電源の操作

1 電源コードをつなぐ

STANDBYインジケーターが点灯します。

2 本機のSTANDBY/ONまたはリモコンのONを押して電源を入れる

STANDBYインジケーターが消灯し、本機は電源オンの状態になります。

3 本機のSTANDBY/ONまたはリモコンのSTANDBYを押してスタンバイ状態にする

お知らせ

スタンバイ状態になっていても本機はわずかに電力を消費しています。本機の電源を完全に切るときは電源プラグをコンセントから抜いてください。

スピーカーのレベル調整をする

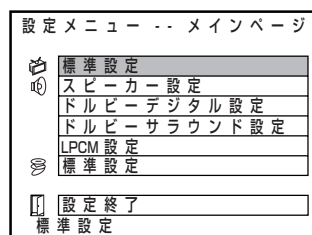
本機のANALOG OUTPUT 5.1 CH端子とオンキヨー製AVサラウンドプロセッサーED-205のMULTI CHANNEL INPUT端子を接続しているときは、サラウンドを楽しむ前に、スピーカーのレベル調整をします。一度設定すると、スピーカー環境を変えたりアンプのつまみを動かさない限り設定を繰り返す必要はありません。

スピーカーセットアップ

あらかじめED-205の取扱説明書12ページ、13ページの手順に従ってスピーカーおよびスピーカーレベルの調整をしておいてください。
ED-205以外のお手持ちのプロセッサーをご使用になる場合も、プロセッサーの取扱説明書に記載されている手順でスピーカーおよびスピーカーレベルの調整をしてください。

1 ED-205のMULTI CH INPUTを押す

2 本機に付属のリモコンのSETUPを押す

設定メニューが画面に表示されます。

3 ▼を繰り返し押して『スピーカー設定』を選びENTERを押す

スピーカー設定の各項目をお手元の機器に合わせて設定します。設定方法は42ページをご覧ください。『ダウンミックス』は『オフ』に設定してください（☞45ページ）。

4 ▼を繰り返し押して『テストトーン』を選び、►を押して『オン』を選びENTERを押す

各スピーカーからテストトーンが出力されます。

5 ED-205のMASTER VOLUMEつまみを回して音量を調整する

通常聞くレベルに調整してください。接続しているすべてのスピーカーの音量が連動して変化します。接続しているアンプの音量つまみは、通常お聞きになる位置に固定してください。

お知らせ
アンプの音量つまみを動かすと、その都度、センター、リアスピーカーのレベル調整をし直す必要があります。

6 ED-205に付属のリモコンのCH SELを押して調整したいスピーカーを選ぶ

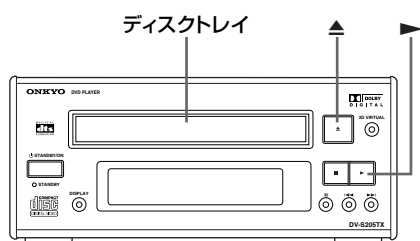
センタースピーカー、右リアスピーカー、左リアスピーカーを調整できます。

7 ED-205に付属のリモコンの▲/▼を押して音量を調整する

視聴位置からすべてのスピーカーのテストトーンが同じに聞こえるように調整します。センター、左右サラウンドスピーカーは−12〜+12dBの間で調整できます。

8 ▼を押して『オフ』を選び、ENTERを押す

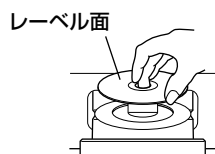
テストトーンの出力が止まります。

ディスクを再生する

1 電源を入れる（☞21ページ）

ディスクを再生するときは、接続した機器の電源を入れ、映像と音声の入力を本機器を接続した入力に切り換えてください。

2 ▲を押す

RC-464DV

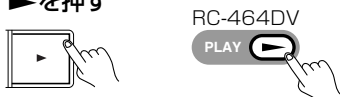
ディスクトレイが開きます。

ディスクはレーベル面（印刷面）を上にして、ディスクトレイの中央に置いてください。

3 ▲を押す

RC-464DV

ディスクトレイが閉じます。

4 ►を押す

RC-464DV

再生が始まります。

お知らせ

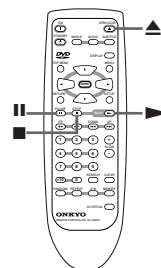
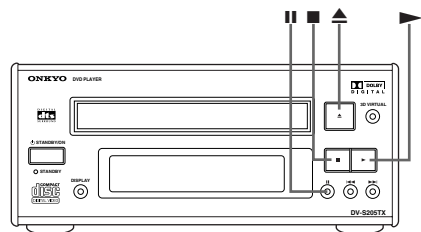
- MP3ディスクの再生については、40ページをご覧ください。
- ►を押しても、トレイが閉じます。
- ディスクを挿入すると、ディスクの種類を自動的に判別し、表示部に表示します。
- ディスクの種類に応じて、収録されている曲数や演奏時間などを表示します。
- 再生中は、ディスクの種類に応じて、表示部にタイトル／チャプター／トラック番号や経過／残量時間などのディスク情報を表示します。
  画面表示（☞37ページ）同様にDISPLAYを押して表示を切り換えることができます。ただし、DTSソフト再生中は、画面表示でディスク情報をご確認ください。
- スタンバイ状態から▲を押すと、電源が入ります。A-905TX/R-805TX/ED-205とシステム接続している場合、A-905TX/R-805TX/ED-205の電源も入ります。

テレビにメニュー画面があらわれたときは

「トップメニュー、メニューを表示する」（☞26ページ）を参照してください。

音声が再生されないときは

- 接続と本機の設定を再度確認してください。（☞16-20、42ページ）
- 「ディスクに複数の音声方式が記録されているときは」（☞27ページ）を参照してください。

ディスクを再生する

DVD VCD CD

ディスクを取り出すには

▲を押して、ディスクトレイを開く

ディスクが完全に開いたら、ディスクを取り出します。その後、再度▲を押してトレイを閉じてください。

DVD VCD CD

再生を一時停止するには

再生中にⅡを押す

再生を再開するには、►を押してください。

お知らせ

一時停止状態が約1分以上続いたのちに再生を再開すると、一度停止したのちに再生を始めることがあります。

DVD VCD

コマ送り再生をするには

一時停止中にⅡを繰り返し押す

押すごとに、1コマずつ進みます。通常の再生に戻すときは►を押してください。

お知らせ

一時停止中やコマ送り再生中は、音声は再生されません。

DVD VCD CD

再生を停止するには

■を押す

再度再生を始めるときは►を押してください。
再生中に表示窓に時間が表示されるDVDビデオでは再生を止めたところ近辺から再生が始まります。

お知らせ

- 停止状態で約10分経過すると本機は自動的にスタンバイ状態になります。
- 再生を止めたところから再生が始まるのは止めた場所（ロケーション）が本機のメモリーに記録されているからですが、以下の場合は、メモリーが初期化されます。
  - ・本機がスタンバイ状態になったとき
  - ・ディスクトレイを開いたとき
- 停止状態のときは、タイトル／チャプターまたは経過時間を指定して再生することはできません。（DVDビデオのみ）
- 再生が始まるところは、ディスクや再生場所によってことなります。

DVD

最初から再生を始めるには

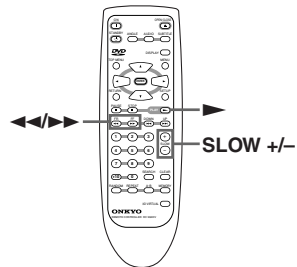
再生停止後、もう一度■を押してから►を押す

現在のタイトルの始めから再生が始まります。
ディスクの始めから再生するときは、一度ディスクトレイを開き、そのまま閉じてから再生を始めます。

お知らせ

再生が始まるところはディスクによって異なります。

ご注意

- 再生中は本機を移動したり揺らしたりしないでください。ディスクを傷つけるおそれがあります。
- ディスクトレイを開け閉めするときは▲を押してください。また、ディスクトレイが動いているときは、トレイに触れないでください。故障につながります。
- ディスクトレイを上から押さないでください。また、本機で再生可能なディスク以外のものをのせないでください。故障につながります。
- 映画などの再生が終わると、多くの場合メニュー画面があらわれます。メニュー画面を長く表示させているとそれがテレビ画面に焼き付いて、画面を傷める場合があります。これを避けるため、再生が終わったら■を押してください。

DVD VCD CD

早送り、早戻しをするには

再生中に、►►（早送り）／◄◄（早戻し）を押す

2倍速の早送り／早戻しになります。

同じボタンを押すたびに、以下のように再生速度が変わります。

→2倍速（2×）→4倍速（4×）→6倍速（6×）

通常←8倍速（8×）←

早送り、早戻し再生中に►を押すと通常の再生速度に戻ります。

お知らせ

- 早送り、早戻し再生のときは、音声は再生されません。
- 2倍速、4倍速、6倍速、8倍速はおおよその再生速度のめやすです。再生速度はディスクによって多少違います。
- 音楽用CDを再生しているときに再生速度を確認したいときは、テレビの電源を入れ、本機接続の入力に切り換えてください。

DVD VCD

スローモーションで再生するには

再生中に、SLOW ＋（スロー再生）／SLOW －（逆スロー再生）を押す

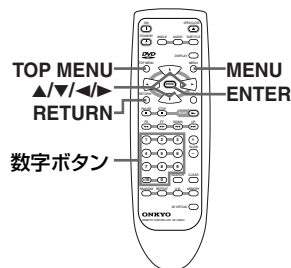
同じボタンを押すたびに、以下のように再生速度が変わります。

→1/2倍速（2×）→1/4倍速（4×）

通常←1/8倍速（8×）←

スローモーション再生中に►を押すと通常の再生速度に戻ります。

お知らせ

- スローモーション再生中は、音声は再生されません。
- ビデオCDでは逆スロー再生はできません。ビデオCDの再生中にSLOW －を押すと、スロー再生の速度が切り換わります。

DVD

トップメニューを表示する

TOP MENUを押す

TOP MENUを押してもトップメニューが表示されないときは、MENUを押してください。ディスクによってトップメニューが含まれていない場合もあります。

トップメニューについて

多くの場合、DVDビデオや、PBC（Playback Control）機能付きのビデオCD（☞「ビデオCDについて」、9ページ）は、メニューでタイトルやチャプター、トラックを選べます。

DVDビデオの再生中にテレビ画面にトップメニューが表示されたときは、▲/▼/◀/▶で項目や設定を選び、ENTERを押して決定してください。

VCD

ビデオCDのメニューを表示する

再生中にRETURNを押す

ビデオCDの再生中にテレビ画面にメニューが表示されたときは、数字ボタンで項目や設定を選んでください。

お知らせ

- 操作内容はディスクにより異なります。ディスクの指示に従ってください。
- ビデオCDの場合、PBCがオフになっているときはメニューは表示されません。停止状態でRANDOM、MEMORY、数字ボタンを押すとPBCはオフになります。PBCをオンにするには、▲を押して一度ディスクトレイを開閉してください。

DVD

メニューを表示する

MENUを押す

MENUを押してもメニューが表示されないときは、TOP MENUを押してください。ディスクによってメニューが含まれていない場合もあります。

メニューについて

DVDビデオには、複数の言語や複数の音声方式が含まれている場合があります。多くの場合、このようなDVDビデオは、メニューで言語（ディスクメニュー言語、音声言語、字幕言語など）や音声方式などを選ぶことができるようになっています。

再生中にテレビ画面にメニューが表示されたときは、▲/▼/◀/▶で項目や設定を選び、ENTERを押して決定してください。

DVD

ディスクに複数の音声方式が記録されているときは

ディスクメニューで音声方式を選ぶときは、本機と他機の音声接続（☞16-20ページ）が判断基準になります。下記の例をご参考にしてください。

デジタル端子接続をしたときの例

□ アンプにDTSデコーダーがあるときは
→ 「DTS」または「dts」を選ぶ

□ アンプにドルビーデジタルデコーダーがあるときは
→ 「ドルビーデジタル」または「Dolby Digital」、「DD 6CH」、「DD 5.1CH」、「DOLBY DIGITAL」を選ぶ

□ アンプにドルビープロロジックデコーダーがあるときは
→ 「ドルビープロロジック」または「Dolby Pro Logic surround」、「DOLBY SURROUND」を選ぶ

□ アンプが2チャンネルステレオタイプのときは
→ 「ステレオ」または「Stereo」を選ぶ

アナログ端子接続をしたときの例

□ アンプにドルビープロロジックデコーダーがあるときは
→ 「ドルビープロロジック」または「Dolby Pro Logic surround」、「DOLBY SURROUND」を選ぶ

□ アンプが2チャンネルステレオタイプのときは
→ 「ステレオ」または「Stereo」を選ぶ

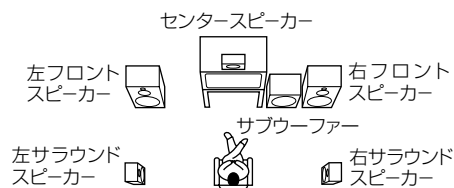
□ 音声をテレビのスピーカーから再生するとき
→ 「ステレオ」または「Stereo」を選ぶ

お知らせ

ドルビーデジタル、PCM、DTS信号はアナログ信号に変換され、出力されます。

DVD

音声方式と音声効果について

DTS/ドルビーデジタルサラウンド音声をマルチチャンネルで楽しむために必要なスピーカー構成

DTS、ドルビーデジタルの5.1チャンネルデジタルサラウンド方式は、5つ（左右フロント、センター、左右サラウンド）のフルレンジ（20Hz-20kHz）チャンネルと、低音域効果のためのLFE（Low Frequency Effect）チャンネルが独立して記録されており、それぞれのチャンネルを独立して再生することができます。これにより、劇場やコンサートホールの臨場感を再現することができます。

ドルビーデジタルサラウンド

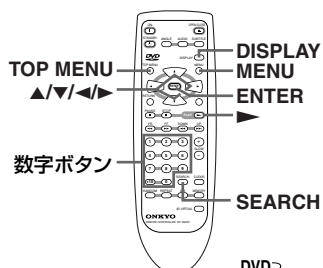
DOLBY DIGITAL マークのあるDVDビデオがこの方式で記録されています。

DTSサラウンド

dts マークのあるDVDビデオや音楽CDがこの方式で記録されています。

ドルビープロロジックサラウンド

DOLBY SURROUND マークのついたLD、DVDビデオがこの音声方式で記録されています。
このサラウンド方式は、4チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド）で構成され、センターチャンネルを強調します。音楽や会話における音の移動や、フロント3チャンネルからの音の3次元空間を表現するのに効果的です。また、劇場の脇や後ろの壁から反響するサラウンド音声効果や雰囲気も強調します。

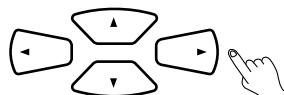
指定して再生する

DVD

メニュー画面でタイトルを指定して再生する

DVDビデオにメニューがあるときは、そのメニュー機能を使用してタイトルを選べます。

1 TOP MENUを押す（ディスクによってはMENUボタンを押す）

メニューがテレビ画面に表示されます。

2 ▲/▼/◄/►を押して、タイトルを選ぶ

タイトルに番号がついているときは、数字ボタンを押して直接タイトルを指定することもできます。

3 ENTERまたは►を押す

選んだタイトルのチャプター1から再生が始まります。

お知らせ

上記の操作は基本的な説明で、実際はディスクによってことなる場合もあります。画面に操作方法が表示されたときはそれにしたがって操作してください。

DVD

タイトルとチャプター番号を指定して再生する

DVD ビデオにタイトルとチャプターに対応した番号があるときは、それぞれの番号を指定してタイトルとチャプターを選ぶことができます。

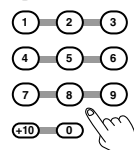
1 SEARCHを押してタイトル／チャプター表示をテレビ画面に表示させる

（例）

タイトル 01/06　チャプター 001/003

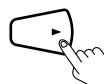
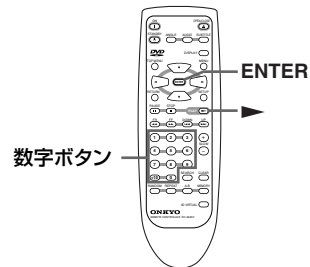
『タイトル』の右の数字が反転しているのを確認してください。（違う場所が反転しているときは、◄/►を押して『タイトル』の右の数字を反転させてください。

2 数字ボタンを押して、タイトル番号を入力する

1 2 3
4 5 6
7 8 9
+10 0

10以上の番号を入力するときは、+10を使用します。

例:31の場合

+10 → +10 → +10 → 1

3 ►を押して、『チャプター』の右の数字を反転させる

4 数字ボタンを押して、チャプター番号を入力する

10以上の番号を入力するときは、+10を使用します。

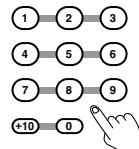
5 ►またはENTERを押す

選んだタイトル／チャプターから再生が始まります。

CD

トラック番号を指定して再生する

トラック番号を指定して、特定のトラックから再生を始めることができます。

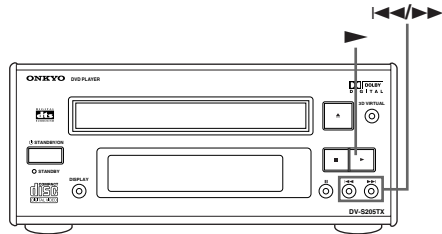
数字ボタンを押して、トラックを選ぶ

10以上の番号を入力するときは、+10を使用します。

お知らせ

- タイトルやチャプターに対応した番号がディスクに入っていないとこの操作はできません。
- タイトル／チャプター画面を閉じるときはDISPLAYを数回押します。（押す回数はディスクによって違います。）

ビデオCDの場合

PBCがオンのときは、メニュー画面で数字ボタンを使いトラックを選びます。再生中は選べません。
PBCがオフのときは、CDと同じ手順で操作してください。

指定して再生する

DVD VCD CD

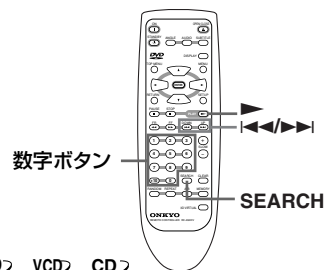
再生中に、前後のチャプター／トラックを頭出しする

現在のチャプター／トラックから続いたチャプター／トラックを選んで再生することができます。

⏮または⏭を（繰り返し）押して、再生するチャプター／トラックの頭出しをする

⏮を1回押すと、現在のチャプター／トラックの頭から再生します。その後⏮を1秒以内に続けて押すと、押すごとに1つずつ前のチャプター／トラックに戻ります。
⏭を押すと、押すごとに1つずつ次のチャプター／トラックに移ります。

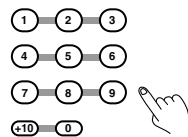
お知らせ

- ディスクによってはこの機能は使用できません。
- タイトルによってはチャプター番号を表示しないものもあります。
- PBCがオンのときに⏮または⏭を押すとメニュー画面に戻ることがあります。
- 一時停止中に⏮または⏭を押すと一時停止が解除され、選ばれたチャプター／トラックから再生が始まります。

DVD VCD CD

経過時間を指定して再生を始める

時、分、秒を指定して、再生を始めることができます。

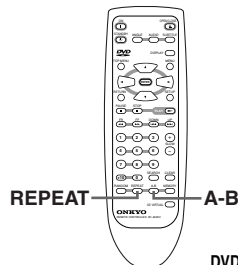
1 **SEARCHを繰り返し押して時間表示（DVD再生時は『_ _：_ _：_ _』、CD再生時は『_ _：_ _』）をテレビ画面に表示させる**

2 **数字ボタンを押して、時、分、秒を入力する**

3 **►またはENTERを押す（DVDビデオのみ）**

指定した経過時間の場面から再生が始まります。

お知らせ

- ディスクによってはこの機能は使用できません。
- 場面によっては指定した時間からずれて再生されることがあります。
- この機能は、DVDビデオの場合は現在のタイトル内、ビデオCDや音楽用CDの場合は現在のトラック内ではたらきます。

繰り返し再生をする―リピート再生

選んだタイトルやチャプター、トラックを繰り返し再生したり、ある部分を選び、そこだけ繰り返し再生したりすることができます。

DVD VCD CD

選んだタイトル、チャプター、トラックをリピート再生する

1 **再生中にリピート再生したいタイトル、チャプター、トラックを選ぶ（☞28、29ページ）**

2 **REPEATを押す**

本体表示部に、REPEATインジケーターが点灯します。

押すたびにリピートモードが以下のように変わります。

DVD

チャプターリピートオン→タイトルリピートオン→リピートオフ

VCD CD

トラックリピートオン（リピート1）→ディスクリピートオン（リピートオール）→通常再生（リピートオフ）

お知らせ

- ディスクによってはリピート再生はできません。
- 電源を切るとリピート再生は解除されます。
- ビデオCDのPBCがオンのときは、リピート再生できません。

DVD VCD CD

選んだ部分だけを繰り返して再生する―A-Bリピート再生

A点とB点を選び、A点からB点までを繰り返し再生します。

1 **再生中に繰り返しを始めるところで、A-B を押す**

A点が設定されます。

『A』がテレビ画面に表示されます。

2 **繰り返しの終わりで、A-Bを押す**

B点が設定されます。

自動的にA点に戻り、A-Bリピート再生が始まります。

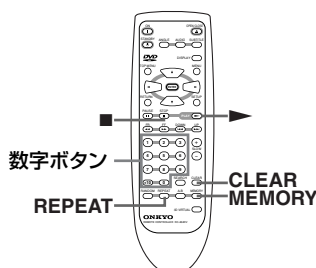
『A-B』がテレビ画面に表示されます。

通常再生に戻すには

『A-Bリピートオフ』がテレビ画面に表示されるまでA-Bを押す

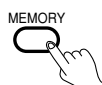
お知らせ

- ディスクによってはA-Bリピート再生はできません。
- A-Bリピート再生中は、A-B間の前後の字幕が表示されないことがあります。
- 電源を切るとA-Bリピート再生は解除されます。

お好みの順序で再生する— メモリー再生

トラックを好みの順序で再生することができます。最大99トラックまで設定することができます。

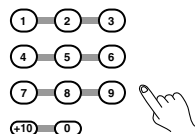
VCD CD

トラックの再生順序をメモリーに記憶させて再生する

1 ディスクを本機にセットし、停止中にMEMORYを押す

メモリー状態がテレビ画面に表示されます。

メモリー　P00:00

2 数字ボタンを押してトラック番号を入力する

1 2 3
4 5 6
7 8 9
+10 0

10以上の番号を入力するときは、+10を使用します。
この繰り返しで次のトラックを選びます。
メモリー再生の内容を1つずつ取り消すにはCLEARを押します。CLEARを押すたびに最後にメモリーしたものから順に取り消されます。

お知らせ

数字ボタン、CLEAR、►以外の操作ボタンを押すと、メモリー状態が終了し、メモリー再生内容が全て取り消されます。

3 メモリー状態がテレビ画面に表示されている間に►を押す

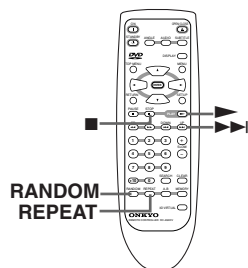
メモリー再生が始まります。

通常の再生に戻すには

■を押してメモリー再生を止め、MEMORYを押すとメモリー内容は全て取り消されます。
その後、►を押すとディスクの先頭から通常の再生が始まります。

お知らせ

- ディスクによってはメモリー再生はできません。
- メモリー再生中にREPEATを押してリピートオールを選ぶと、メモリー再生を繰り返します。
- 電源を切るか、本機からディスクを取り出すと、メモリー再生の内容は消去されます。
- メモリーした曲の合計演奏時間が99分59秒以上の場合は経過／残量時間が正しく表示されません。

順不同で再生する— ランダム再生

トラックをランダムに再生することができます。

VCD CD

トラックをランダム再生する

1 ディスク停止中に、RANDOMを押す

2 ►を押す

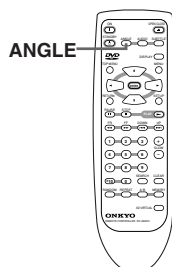
ランダム再生が始まります。

通常再生に戻すには

■を押してランダム再生を止め、RANDOMを押す

お知らせ

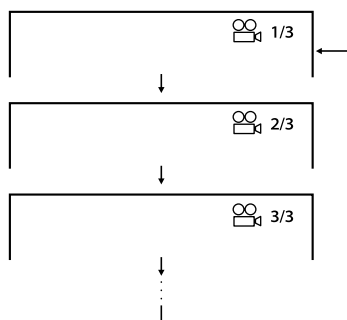
- ディスクによってランダム再生はできません。
- メモリー再生との併用はできません。
- ランダム再生中に►►Iを押すと、別のトラックに移り、ランダム再生が続きます。
- 電源を切ると、ランダム再生は解除されます。
- ランダム再生中にREPEATを押してリピートオールを選ぶとランダム再生を繰り返します。

カメラアングルを切り換える

複数のカメラアングルが記録された場面では、お好みのカメラアングルを選ぶことができます。

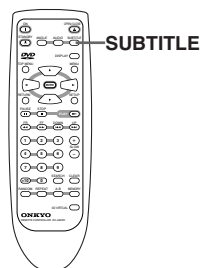
DVD

複数のカメラアングルが記録された場面から、アングルを選ぶ

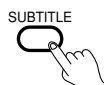
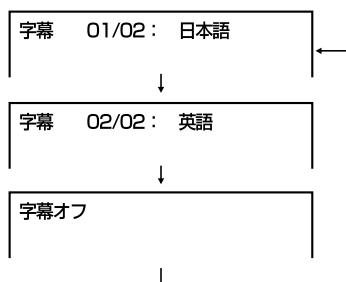
複数のカメラアングルが記録されている場面で、ANGLEを繰り返し押してカメラアングルを選ぶ

ANGLEを押すたびに、以下のようにアングルが切り換わります。

お知らせ

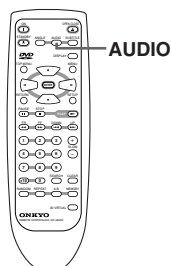
- 一時停止中もアングル番号を選ぶことができますが、このときは、再生を再開してから選んだアングルに切り換わります。
- アングルを選んだ後すぐに一時停止すると、再生を再開したときに選んだアングルにならないときがあります。
- アングルマークを消すには、標準設定で『ANGLEマーク』を『オフ』にしてください（☞44ページ）。

字幕を表示させる／字幕言語を選ぶ

ディスクに字幕が記録されていれば、再生画面に字幕を表示させることができます。また、複数の字幕言語が記録されていたら、字幕の言語を選ぶこともできます。

字幕を切り換える

再生中にSUBTITLEを繰り返し押して字幕を選ぶ

SUBTITLEを押すたびに、以下のように字幕が切り換わります。

お知らせ

- 電源を切ったり、ディスクを入れ替えたりすると、字幕設定は、初期設定メニュー（☞42ページ）の設定に戻ります。
- 場面によっては、すぐには字幕言語が切り換わらない場合もあります。
- ディスクによっては自動的に字幕が表示されるように設定されています。このときは、字幕オフにしても、字幕を消すことはできません。
- ディスクによっては、ディスクに用意されたメニューでしか、字幕の入り、切りを操作できない場合があります。
- 初期設定メニューにない言語は、「−−−」表示になります（☞48ページ）。

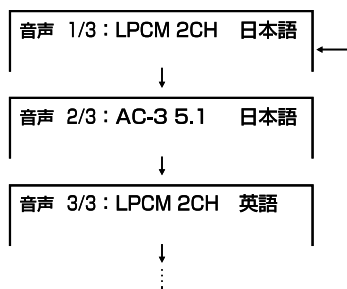
お好みの音声言語や、音声方式を選ぶ

ディスクに複数の音声言語や音声方式が用意されていたら、そのうちの1つを選ぶことができます。

DVD

音声言語・方式を選ぶ

設定メニュー（☞42ページ）で選択された音声言語を以下の手順で一時的に変えることができます。また、ディスクが複数の音声方式で記録されている場合は、音声言語とのセットで音声方式も選べます。

再生中にAUDIOを繰り返し押して音声言語・方式を選ぶ

AUDIOを押すたびに、以下のように表示が切り換わります。

お知らせ

- ディスクによっては、ディスクに用意されたメニューでしか、音声言語や音声方式を選べない場合があります。このときは、MENUを押してディスクのメニューを表示させて選んでください。
- ディスクによっては音声言語･方式が1セットしか用意されていないものもあります。このときは、音声言語･方式を選べません。
- 電源を切ったり、ディスクを入れ替えたりすると、音声言語の設定は『初期設定』の『音声』（☞48ページ）の設定に戻ります。
- 初期設定メニューにない言語は、「– – –」表示になります（☞48ページ）。

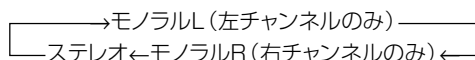
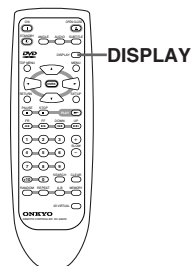
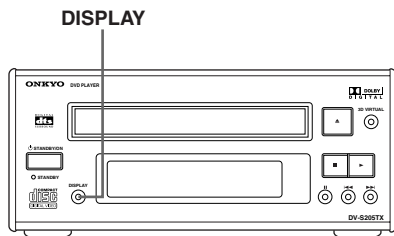
VCD　CD

ビデオCD、CDの音声チャンネルを選ぶ

ビデオCD、CDには左右の音声チャンネルが含まれている場合があり、それぞれのチャンネルに音声や言語が割り当てられている場合、チャンネルを切り換えることができます。

再生中に、AUDIOを繰り返し押して、音声チャンネルを選ぶ

AUDIOを押すたびに、以下のように音声チャンネルが変わります。

→モノラルL（左チャンネルのみ）
ステレオ←モノラルR（右チャンネルのみ）←

ディスク情報を確認する

ディスク情報をテレビ画面で確認することができます。

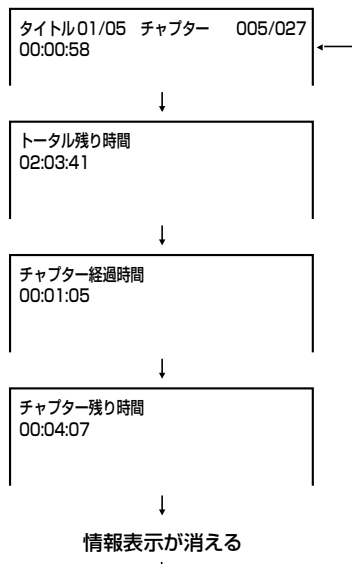
DVD VCD CD

画面表示を確認する

DISPLAYを押す

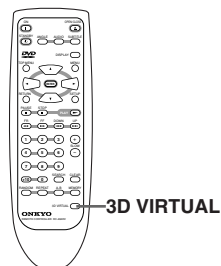
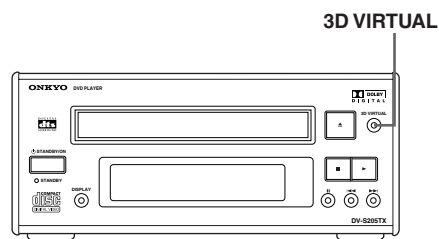
DISPLAY　　RC-464DV　　DISPLAY

DISPLAYを押すたびに、テレビ画面の表示が以下の例のように切り換わります。

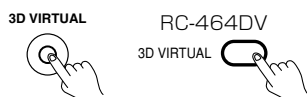
DVD

VCD CD

お知らせ

- DVDビデオによって、チャプター番号や経過時間が表示されない場合があります。
- 一時停止中は時間表示の切り換えはできません。
- メニュー、トップメニュー表示中は情報表示の切り換えはできません。

3D VIRTUALサラウンドを楽しむ

本機は3D VIRTUAL技術により、サラウンドエンコードされたステレオ音声やマルチチャンネル音声を処理して、2つの前面スピーカーのみで、より臨場感のある立体音場が再現できる3Dバーチャルサラウンド（3次元仮想立体音場）を実現しています。

3Dバーチャルサラウンドを選ぶ

停止中に3D VIRTUALを繰り返し押して、3D VIRTUALを選ぶ

3D VIRTUALを押すたびに、『スピーカー設定』の『ダウンミックス』が以下のように切り換わります。

→LT/RT→ステレオ→3D VIRTUAL
ダウンミックスオフ←

『スピーカー設定』の『ダウンミックス』でも切り換えられます。（☞45ページ）

お知らせ

- この機能は、アナログ2チャンネル出力にのみ働きます。
- ディスクによってはサラウンド効果の少ないものがあります。
- 3Dバーチャルサラウンドを楽しむときは本機の『音声出力』を『ビットストリーム』にしてください。（☞44ページ）

タイマー演奏する（システム操作）

R-805TX（またはA-905TXとT-405TXの組み合わせ）とシステム接続すると、タイマー演奏ができます。
タイマーセットの方法は、R-805TX/T-405TXの取扱説明書をご覧ください。

CD

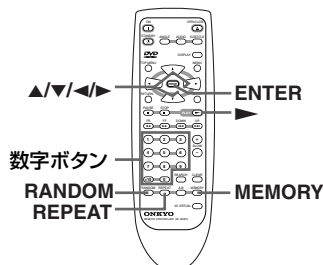
タイマー演奏する

1 **音楽用CDを入れる（☞23ページ）**

2 **R-805TX/T-405TXのタイマーを設定する**

お知らせ

- 本機は必ず常時通電しているコンセントに接続してください。A-905TX背面の電源コンセントに接続するときは、A-905TXの主電源スイッチ（POWER）を切らないでください。
- タイマー演奏には音楽用CDをお使いください。DVDビデオやビデオCDでは、正しく再生できない場合があります。
- MP3ディスクはタイマー演奏できません。
- R-805TXのエナジーセーブがはたらいているときは、タイマーははたらきません。

MP3を再生する

本機はMP3ファイルの記録されたメディアを再生することができます。

MP3を再生する

1 **MP3ファイルの記録されたディスクを入れる**

テレビ画面にSMART NAVIが表示されます。

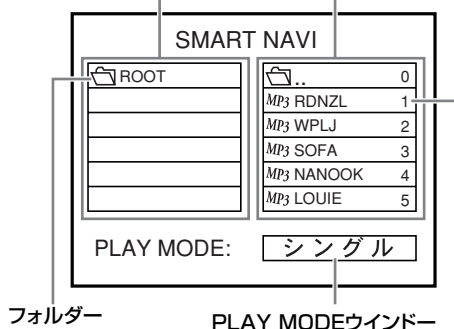
フォルダーウインドー　ファイルウインドー　ファイル

SMART NAVI

ROOT

.. 0
MP3 RDNZL 1
MP3 WPLJ 2
MP3 SOFA 3
MP3 NANOOK 4
MP3 LOUIE 5

PLAY MODE: シングル

フォルダー　PLAY MODEウインドー

2 **▲/▼を押して再生したいファイルまたはファイルを含むフォルダーを選び、ENTERまたは►を押す**

フォルダー内のファイルがファイルウインドーに表示されます。
上の階層のフォルダーを選びたいときは、◄/►を押して再生したいファイルを含むフォルダーを選び、ENTERまたは►を押します。
0を押すと上の階層に戻ります。

3 **▲/▼を押して再生したいファイルを選び、ENTERまたは►を押す**

再生が始まります。
数字ボタンを使ってファイルを選ぶこともできます。

ご注意

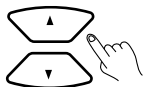
MP3再生中は▲/▼/◄/►ボタンは効きません。

MP3ディスクについて

- MP3とは、MPEG1オーディオレイヤー3またはMPEG2オーディオレイヤー3というファイル形式で圧縮した音楽データです。「.mp3」という拡張子の付いたファイルをMP3ファイルと呼びます。
- ISO9660およびJoliet CD-ROMファイルシステムに従って記録してください。
- MPEG1オーディオレイヤー3のサンプリング周波数32kHz、44.1kHz、または48kHzの固定ビットレートで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは再生することができません。
- 「.mp3」、または「.MP3」という拡張子がついたMP3ファイルのみ再生することができます。
- マルチセッションには対応していません。
- フォルダー／トラックの名前は最大11文字まで表示します(半角英数字で入力された文字のみ)。半角英数字以外で入力されているフォルダー／トラックの名前は、正しく表示されません。

PLAY MODEを使って再生する

1 停止中に◄/►を押してPLAY MODEウインドーにカーソルを合わせる

2 ▲/▼を押してPLAY MODEを選びENTERを押す

以下のPLAY MODEが選べます。

シングル
現在選択されているMP3ファイルを1回再生します。

リピート1
現在選択されているMP3ファイルを繰り返し再生します。

フォルダ
現在選択されているファイルを含むフォルダー内のMP3ファイルを再生します。

Fリピート
現在選択されているファイルを含むフォルダー内のMP3ファイルを順番にリピート再生します。

ランダム1
現在選択されているファイルを含むフォルダー内のMP3ファイルをランダムに再生します。一度再生されたMP3ファイルも含めてランダム再生します。

ランダム2
現在選択されているフォルダー内のMP3ファイルをランダム再生します。一度再生されたMP3ファイルは次の候補から除かれます。

メモリー
100曲までメモリー登録できます。右記の手順でメモリー登録してください。

3 ファイルまたはフォルダーを選んで再生を始める（☞40ページ）

MP3をメモリー登録する

1 MEMORYを押す
SMART NAVI画面のPLAY MODEウインドーに「メモリー」と表示されていることを確認してください。
2 ◄/►を押してファイルウインドーにカーソルを合わせる
3 ▲/▼を押してメモリー登録したいMP3ファイルにカーソルを合わせENTERを押す
4 手順2を繰り返し、MP3ファイルをメモリー登録する
5 ■を押し、メモリー登録を終了する
「メモリー終」が表示されます。►を押すと再生が始まります。

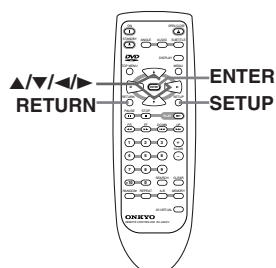
お知らせ

- 同一フォルダの中でのみメモリー登録できます。他のフォルダーに移動すると、メモリー登録された内容は消去されます。
- リモコンのMEMORY、RANDOM、REPEATを押してPLAY MODEを選ぶことができます。各ボタンを押すごとに以下のようにPLAY MODEが変わります。

MEMORYボタン
フォルダ↔メモリー

RANDOMボタン
→フォルダ→ランダム1→ランダム2→

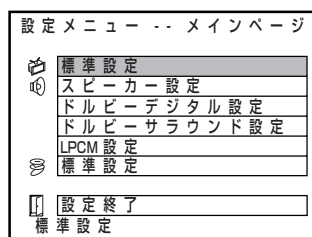
REPEATボタン
→フォルダ→リピート1→Fリピート→

設定メニューを確認／変更する

ディスクを本機にセットしたときに、いろいろな再生機能がこの設定メニューによってセット（リセット）されます。設定メニューの内容は、お好みで変更することができます。

設定変更のしかた

設定メニューは、標準設定、スピーカー設定、ドルビーデジタル設定、ドルビーサラウンド設定、LPCM設定、初期設定の6つのカテゴリーに分かれています。各カテゴリーの下に、詳細機能の項目があります。

1 ディスク停止中に、SETUPを押す

設定メニューがテレビ画面に表示されます。

2 ▲/▼を押してカテゴリーを選び、ENTERを押す

『初期設定』は、本機からディスクを取り出して設定してください。

3 ▲/▼を押して項目を選び、▶を押す

4 ▲/▼を押して設定を選び、ENTERを押す

◀を押すと項目に戻ります。

5 選んだ項目や設定によっては、さらに設定手順が続く場合があります。43ページ以降の各項目の説明にしたがってください。

メインページに戻るには

◀ / ▶ / ▲ / ▼ を押して『メインページ』を選ぶかRETURNを1回押す

設定画面を消すには

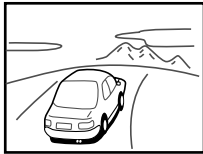
▲/▼を押して『設定終了』を選ぶかSETUPを押す

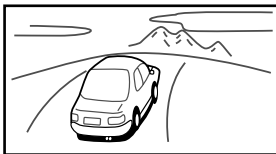
お知らせ

- 再生中でもSETUPボタンは働きます。ただし操作を受け付けられない場合もありますので、その場合は、再生を止め、もう一度SETUPを押してください。
- テレビ画面が表示されないときはお手持ちのテレビの方式と本機の『TVタイプ』の設定が合っていないことが考えられます。本機の▶▶|を押しながらSTANDBY/ONを押して、TVタイプを切り換えてみてください。（☞43ページ）

標準設定

TVアスペクト

・ **ノーマル/PS（パンスキャン）**
従来の4:3テレビを接続しているときに選びます。デレビ画面全体に再生画面を表示します。画面の片側または両側の画像部分がカットされます。

・ **ノーマル/LB（レターボックス）**
従来の4:3テレビを接続しているときに選びます。テレビ画面に対して横長に表示します。

・ **ワイド**
16:9ワイドテレビを本機に接続しているときに選びます。

お知らせ

- DVDビデオには、再生できる画面形状があらかじめ設定されています。その場合、ここで選んだ画面形状通りに再生されないことがあります。
- 4:3の画面形状だけで記録されたDVDビデオディスクは、ここで選んだ画面形状にかかわらず、4:3の画面形状で再生されます。
- 4:3のテレビを本機に接続した状態で『ワイド』を選ぶと、再生画面に水平方向の歪みや縦方向の縮みが生じます。お使いのテレビに合わせて設定を行ってください。

TVタイプ

・ **MULTI**
ご使用のテレビがNTSC方式とPAL方式を兼用しているときに選びます。

・ **NTSC TV**
通常は『NTSC TV』を選んでください。（国内で使われているテレビはNTSC方式です。）

・ **PAL TV**
ご使用のテレビがPAL方式のときに選びます。

お知らせ

間違ったTVタイプの設定をして画面が表示されなくなった場合は、STANDBY/ONを押して、本機をスタンバイ状態にしてください。その後再度STANDBY/ONを押して電源をオンにしてから本機の►►Iを押しながらSTANDBY/ONを押してTVタイプを切り換え、画面が表示されるようにしてから標準設定メニューで正しい設定に切り換えてください。

画像モード

・ **自動**
ディスクに記録されている情報に従って自動的に画像モードを選択します。

・ **HI-RES（ハイレゾリューション）**
輪郭のはっきりした画面で再生できます。

・ **N-FLICKER（ノンフリッカー）**
ノイズの少ない画面で再生できます。

標準設定

ANGLEマーク

・ **オン**
複数のカメラアングルが記録されている場面で🎥を画面に表示します。

・ **オフ**
🎥を画面に表示しません。（アングルを切り換えたときは表示します。）

画面表示言語

画面表示言語を、以下から選びます。
・ **英語**
・ **日本語**

音声出力

『音声出力』を変えることで、音声の変換方法を変更することができます。
『音声出力』の設定は、本機のDIGITAL OUTPUT端子やANALOG OUTPUT端子に接続した機器（☞16-20ページ）によって決まります。

・ **ビットストリーム**
ドルビーデジタル、DTSの各デコーダーを内蔵したアンプを本機にデジタル接続しているとき、マルチチャンネル入力端子を持つアンプやＡＶサラウンドプロセッサーを本機のANALOG OUTPUT 5.1CH端子に接続しているときに選びます。
ドルビーデジタル、DTSで記録されたディスクを再生すると、DIGITAL OUTPUT端子からビットストリームを、ANALOG OUTPUT 5.1 CH端子からマルチチャンネル音声を出力します。

・ **PCM**
DIGITAL OUTPUT端子に2チャンネルデジタルステレオアンプ（ビットストリームの項目で記述してあるどのデコーダーも備わっていないアンプ）を接続したときに選びます。
ドルビーデジタルや、DTS音声信号は、2チャンネルPCM音声信号に変換されて、DIGITAL OUTPUT端子とANALOG OUTPUT 2 CH端子から出力されます。

お知らせ

R-805TXと本機を接続している場合:
→ 『PCM』に設定してください。
R-805TX、ED-205と本機を接続している場合:
→ 『ビットストリーム』に設定してください。アナログ録音など2チャンネル出力を使うときは『PCM』に設定してください。

警告

ドルビーデジタル／DTSデコーダーが備わっていないデジタルアンプとデジタル接続している場合は、『音声出力』を『ビットストリーム』に設定しないでください。大音量が出て聴覚やスピーカーを損傷する恐れがあります。（☞19ページ）

キャプション

この機能を『オン』にしておけば、耳の不自由な方のために効果音など場面の状況を解説する字幕が記録されているDVDビデオを再生すると、自動的に解説字幕も表示されます。

・ **オン**
解説字幕を自動的に表示します。

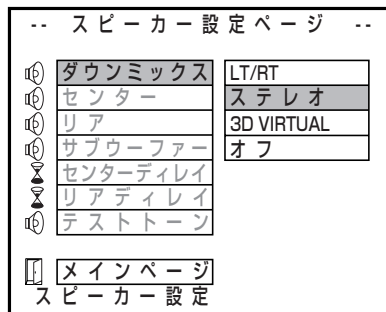
・ **オフ**
この機能を停止します。

SCRセーバー

この機能を『オン』にしておけば、本機を一定時間以上停止状態にしたときに、画面焼き付き防止のためにスクリーンセーバーがはたらきます。

・ **オン**
スクリーンセーバーが働きます。

・ **オフ**
スクリーンセーバーは働きません。

スピーカー設定

ダウンミックス

マルチチャンネル音声を2チャンネルにダウンミックスして再生するときのダウンミックスの種類を設定します。

- LT/RT
  2チャンネル入力しか対応していないドルビープロロジック対応のAVアンプでサラウンド機能を使用するときに選びます。5.1チャンネルの信号をドルビー社の規格に基づき、ダウンミックス処理して2チャンネルの信号として出力します。その2チャンネル信号をドルビーサラウンドデコーダーに入力すると、4チャンネル（フロント3チャンネル、リア1チャンネル）で再生することができます。
- ステレオ
  2チャンネルアンプ使用時やテレビの音声入力を使って音声をステレオで楽しむときに選びます。マルチチャンネル音声をステレオにダウンミックス処理して出力します。
- 3D VIRTUAL
  2チャンネルアンプ使用時やテレビの音声入力を使って音声を3Dバーチャルで楽しむときに選びます。マルチチャンネル音声を3D VIRTUALにダウンミックス処理して出力します。
- オフ
  マルチチャンネル入力対応のAVアンプでフロントスピーカー以外にスピーカーを接続しているときに選びます。ダウンミックス処理しません。

お知らせ

３Ｄバーチャルを楽しむときは『音声出力』を『ビットストリーム』にしてください。

センター

- オン
  センタースピーカーを接続しているときに選びます。
- オフ
  センタースピーカーを接続していないときに選びます。

リア

- オン
  リアスピーカーを接続しているときに選びます。
- オフ
  リアスピーカーを接続していないときに選びます。

サブウーファー

- オン
  サブウーファーを接続しているときに選びます。
- オフ
  サブウーファーを接続していないときに選びます。

お知らせ

- ダウンミックスをLT/RT、ステレオまたは3D VIRTUALに設定しているときはセンター、リア、サブウーファーは自動的に『オフ』に設定されます。
- 『音声出力』を『PCM』にしているときは2チャンネル出力になるので、ダウンミックスをオフにしてもセンター、リアおよびサブウーファーの設定はできません。

スピーカー設定

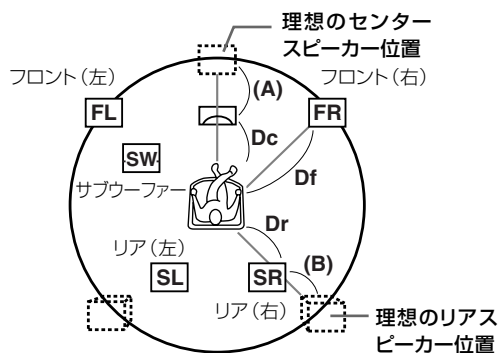
センターディレイ

・ オフ
・ 1 MSから5 MS

リアディレイ

・ オフ
・ 3 MSから15 MS

ディレイ（遅延時間）について

5.1チャンネルサラウンドをお楽しみになるときは、視聴位置は、すべてのスピーカーとの距離が等しいことが理想とされます。センター／リアスピーカーにディレイを設定することによって、仮想的に理想の視聴位置を作り出すことができます。（センター／リアスピーカーを図の点線の位置に配置したように設定できます。）

センターディレイ
オフ:DcとDfが等しいとき。
1ms:（A）が約34cmのとき
2ms:（A）が約68cmのとき
3ms:（A）が約102cmのとき
設定値は、（A）を34で割って算出します。

リアディレイ
オフ:DrとDfが等しいとき。
3ms:（B）が約102cmのとき
6ms:（B）が約204cmのとき
9ms:（B）が約306cmのとき
設定値は、（B）を34で割って算出します。

テストトーン

本機からそれぞれのアナログ音声出力にテストトーンを出力します。詳しくは22ページをご覧ください。
・ オン
・ オフ

ドルビーデジタル設定

デュアルモノ

デュアルモノのフォーマットで記録されたドルビーデジタル音声の出力を設定します。

- **ステレオ**
  左右チャンネルをステレオで出力します。
- **Lモノラル**
  左チャンネルをモノラルで出力します。
- **Rモノラル**
  右チャンネルをモノラルで出力します。
- **L+Rモノラル**
  左右チャンネルをミックスしてモノラルで出力します。

レンジ圧縮

ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえるように調整します。

- **オフ**
  レンジ圧縮しません。
- **1/8〜フル**
  レンジ圧縮します（8段階）。

お知らせ

- 本機能はドルビーデジタル音声で記録されたディスクにのみはたらきます。
- レンジ圧縮による効果はディスクによって差があります。

ドルビーサラウンド設定

オン／オフ

2チャンネルソースをマルチチャンネルで出力するときに、ドルビーサラウンド処理をして出力するか、処理をせずに出力するかを設定します。

- **オフ**
  ドルビーサラウンド処理をしません。通常は『オフ』にしておきます。
- **オン**
  ドルビーサラウンド処理をします。
- **自動**
  ドルビーサラウンドエンコードされた信号をドルビーサラウンドデコードして出力します。（CDやビデオCDもデコード処理されます。）

LPCM設定

LPCM出力設定

- LPCM 48K
  48kHzまたは96kHzのリニアPCM音声で記録されたDVDを48kHz/16bitに変換し、デジタル出力します。
- LPCM 96K
  48kHzまたは96kHzのリニアPCM音声をそのままデジタル出力します。ただし、著作権保護のための処理がされているDVDの場合には、48kHzまたは96kHzでデジタル出力されません。

ご注意

『LPCM 96K』は『音声出力』が『PCM』のときに有効です。『音声出力』が『ビットストリーム』の時は96kHzのリニアPCM音声も48kHzで出力されます。

初期設定

音声

音声言語を、以下から選びます。

- **英語**
- **フランス語**
- **スペイン語**
- **中国語**
- **日本語**
- **ドイツ語**

お知らせ

言語を選んでも、ディスクによってはディスクで決められた初期言語で音声が出力されます。

字幕

字幕言語を、以下から選べます。

- **英語**
- **フランス語**
- **スペイン語**
- **中国語**
- **日本語**
- **ドイツ語**
- **オフ**
  字幕を表示させないときに選びます。

お知らせ

- ディスクによっては、ディスクで決められた初期言語で字幕が表示されます。
- ディスクによっては字幕言語をディスクメニューからしか変更できないことがあります。この場合は、MENUを押してディスクメニューを表示させて字幕を選んでください。

初期設定

DISC MENU

メニュー言語を、以下から選びます。

・ **英語**
・ **中国語**
・ **フランス語**
・ **スペイン語**
・ **日本語**
・ **ドイツ語**

お知らせ

言語を選んでも選んだ言語がディスクに含まれていないときは、ディスクによって決められた初期言語でディスクメニューが表示されます。

地域

DVDビデオの視聴制限レベルを各国にあったものに設定します。以下から選びます。

・ **中国**
・ **フランス**
・ **ホンコン**
・ **日本**
・ **タイワン**
・ **英国**
・ **アメリカ**

視聴制限

視聴制限に対応したDVDビデオには、あらかじめ視聴制限レベルが設定されています。視聴制限レベルの内容、および制限方法はディスクによって異なります。
例えば、ディスク全体が再生できないようになっていたり、過激な暴力シーンをカットしたり、また、そのようなシーンを別のシーンに自動的に差し替えて再生したりするなどの制限方法があります。

- **レベル1**
  子供向けのDVDビデオのみを再生したいときに選びます。（成人向けと一般向けのDVDビデオの再生を禁止します。）
- **レベル2〜7**
  一般向けと子供向けのDVDビデオのみを再生したいときに選びます。（成人向けDVDビデオの再生を禁止します。）
- **レベル8**
  すべてのDVDビデオ（成人向け／一般向け／子供向け）を再生したいときに選びます。
- **制限なし**
  視聴制限は働きません。
  → 「視聴制限の設定を変えるには」の手順に進んでください。

選んだ規制レベルより上のレベルのディスクは再生できなくなります。例えば、レベル7を設定すると、レベル8はロックされ、再生できなくなります。

視聴制限の設定を変えるには

視聴制限レベルを選び、ENTERを押した後、数字ボタンを押して４桁のパスワードを入力し、ENTERを押す

お知らせ

DVDビデオによっては、視聴制限に対応しているかどうかの区別がつきにくいものがあります。必ず、設定した視聴制限の機能がはたらくことを確認してからご使用ください。

パスワード

パスワードを変更するには

番号ボタンで前に設定した4桁のパスワードを入力し、次に新しいパスワードを入力し、再度新しいパスワードを入力し、ENTERボタンを押す
前に設定したパスワードを忘れたときは、数字ボタンで『3308』を入力してください。

お知らせ

- 本機のパスワードの初期設定は『0000』です。
- パスワードは忘れないようにしてください。
- 正しいパスワードを入力しない限り設定内容を変更できません。

デフォルト

パスワード以外の設定を出荷時の状態に戻します。

故障?と思ったら

本機が正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないとき、これ以外の症状のときは、電源コードをコンセントから抜いて「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（DV-S205TX）」「故障状況」をできるだけ詳しくお買い上げいただいたお店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

症状	**原因**	**対応の仕方**
電源が入らない。	電源プラグの差し込みが不完全になっている。	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。
	本機内蔵のコンピューターが、外部からのノイズに影響を受けた。	一度電源を切ってから、電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。
	本機内部のヒューズが飛んだ。	オンキヨーサービスステーションにご連絡ください。
ディスクの再生ができない。	ディスクが入っていない。	ディスクを入れる。（入れたディスクによって、本体の表示部に『DVD』または『VCD』、『CD』の表示がでます。確認してください。
	DVD のリージョン番号が本機に合っていない。	本機では、リージョン番号「2」または「ALL」のディスクを再生してください。
	再生できないディスクを入れた。	本機で再生できるディスクを入れてください。
	ディスクの裏表が逆になっている。	再生面を下にしてディスクトレイに置いてください。
	ディスクがディスクトレイのガイド内に収まっていない。	正しいガイドの内側に置いてください。
	ディスクが汚れている。	ディスクを取り出して、手入れしてください。
	パレンタルロックがはたらいている。	視聴制限レベルを変えてください(☞49 ページ)。
再生画像が時々乱れる。	早送り、早戻しをしている。	早送り、早戻しをすると画像が多少乱れることがあります。これは本機の故障ではありません。
再生画像の明るさが一定しない。または、再生画像にノイズが入る。	コピープロテクト(コピー防止機能)がはたらいている。	本機を直接テレビに接続してください。本機をカセットビデオデッキ経由で接続しないでください。
本機で再生した映像がテレビ画面にあらわれない。	テレビが本機を接続した入力に設定されていない。	テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。
	接続に問題がある。	接続を点検してください。
ディスクの再生順序で再生されない。	リピート再生、メモリー再生、ランダム再生などが設定されている。	特別な再生モードを解除してください。
再生しているディスクの音声が出ない。	『音声出力』と音源の音声方式が合っていない。	現在の『音声出力』を確認して、正しい設定にしてください(☞44 ページ)。
	テレビが本機を接続した入力に設定されていない。	テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。
	接続に問題がある。	接続を点検してください。
ヘッドホンで聞くと、あるいは録音したときにボーカルの音声が聞こえない、またはレベルが低い。	『音声出力』が『ビットストリーム』になっている。	『音声出力』を『PCM』にしてください(☞44 ページ)。

故障?と思ったら

症状	原因	対応の仕方
リモコンのボタンも、本体のボタンもはたらかない。	電源の電圧の変動や、静電気などによって動作がおかしくなった。	電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。または、本体の表示部に「RESET」と表示されるまで本機の■ボタンを押しつづけてください。(約10秒)
本体のボタンははたらくが、リモコンのボタンがはたらかない。	リモコンに乾電池が入っていないか、電池が切れている。	新しい乾電池をリモコンに入れてください。
	リモコンの先が本体の受光部に向けられていない。	リモコンの先を本体の受光部に向けて操作してください。
	リモコンが本体から遠すぎる。	リモコンは、本体から5m以内のところで操作してください。

ご注意　**製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害(CDレンタル料等)については保証致しかねます。大事な録音をするときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音いただきますようお願いいたします。**

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて約5秒後に改めて電源プラグを入れてください。

主な仕様

■一般仕様

電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	18W
質量	2.5kg
外形寸法	205（幅）× 91（高さ）× 334（奥行き）mm

■本体部

信号方式	日米標準NTSCカラーテレビジョン方式／PAL方式
使用レーザー	半導体レーザー　波長650nm/780nm
音声周波数特性（デジタル音声）	DVDリニア音声：48kHz サンプリング4Hz～22kHz 96kHz サンプリング4Hz～44kHz CDオーディオ：4Hz～20kHz
信号対雑音比（SN比）（デジタル音声）	100dB以上
ダイナミックレンジ（デジタル音声）	96dB以上
全高調波ひずみ率（デジタル音声）	0.01％以下
ワウ・フラッタ	測定限界［±0.001％（W. PEAK）以下］
使用条件	温度：5℃～35℃、動作姿勢：水平

■端子部

映像出力	1.0V（p-p）、75Ω、同期負、ピンジャック×1
S映像出力	（Y）1.0V（p-p）、75Ω、同期負、ミニDIN4ピン×1 （C）0.286V（p-p）、75Ω
D1映像出力	（Y）1.0V（p-p）、（CB）／（CR）0.7V（p-p）、75Ω、D端子×1
音声出力（光デジタル音声）	－22.5dBm×2
音声出力（2チャンネル）	2.0 V（rms）、470Ω、ピンジャック×2
音声出力（5.1チャンネルサラウンド）	2.0 V（rms）、470Ω、ピンジャック×6

性能および外観は、性能向上のため予告なしに変更することがあります。

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30〜17:30　（土日祝、弊社休日除く） **■カタログのご請求、製品についてのご相談** ＊e-mail：ホームシアター/オーディオ製品→customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品　→mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL：ナビダイヤル0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または072-831-8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX：072-831-8124　〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ→http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ→http://www.e-onkyo.com

修 理 窓 口　修理のご依頼は取扱説明書の「故障？と思ったら」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

パソコン用スピーカー以外のマルチメディア製品は、

マルチメディアサポートセンター　TEL.072-831-7305　FAX.072-831-8124
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

ホームシアター/オーディオ製品とパソコン用スピーカーは、

窓口	連絡先
札幌サービスステーション	TEL 011-747-6612　FAX 011-747-6619 〒001-0028　札幌市北区北28条西5-1-28　トーシン北28条ビル
仙台サービスステーション	TEL 022-297-0571　FAX　022-257-7330 〒984-0051　仙台市若林区新寺4-9-5　第二丸昌ビル 1F
宇都宮サービスステーション	TEL 028-634-4307　FAX 028-634-4308 〒320-0831　栃木県宇都宮市新町2-7-7
大宮サービスステーション	TEL 048-651-8612　FAX 048-651-9137 〒330-0034　埼玉県さいたま市土呂町2-29-2　高安ビル 1F
東京サービスセンター	TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054　東京都台東区鳥越1-2-3　ハマスエビル
八王子サービスステーション	TEL 0426-32-8030　FAX 0426-36-9312 〒192-0914　東京都八王子市片倉町358番地
横浜サービスステーション	TEL 045-322-9342　FAX 045-312-6603 〒220-0072　横浜市西区浅間町1-13　共益ビル5F
名古屋サービスステーション	TEL 052-772-1229　FAX 052-772-1331 〒465-0013　名古屋市名東区社口1丁目1001番
大阪サービスセンター	TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013　大阪市港区福崎2丁目1番地49号
広島サービスステーション	TEL 082-262-3315　FAX 082-262-6571 〒732-0057　広島市東区二葉の里2-8-28
高松サービスステーション	TEL 087-868-5662　FAX 087-868-5672 〒760-0079　高松市松縄町44-8　西原ビル1F
福岡サービスステーション	TEL 092-418-1357　FAX 092-418-1358 〒812-0006　福岡市博多区上牟田3-8-19　みなみビル202

2001年6月現在　お客様相談窓口、修理窓口の名称、住所、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

F -1

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間はお買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、ただちに電源プラグを抜いてから、修理を依頼してください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名(DV-S205TX)」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しく、お買い上げ店または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または当社サービスステーションにご相談ください。

ご購入された時にご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日　:　　年　　月　　日

ご購入店名　:

Tel.　:　(　　)

メモ: